

子ども学の

ひろば

本の紹介

『星の王子さま』からのクリスマス・メッセージ
高橋洋代 教文館 2013年

前号「古典の散歩道」にご登場された著者は、出会いから50年以上の長きにわたって「星の王子さま」を読み続け、コンパクトながらもかくも魅力的なこの一冊を上梓した。

星の王子さまについて書かれた本はそれこそ星の数ほどあるだろう。けれども、この本ほど作品世界と作者に対する尊敬と憧れの念に貫かれた著作は他にないのではないかと感じる。こんなふうに一冊の本に惚れ込むことができるなんて、その思いをこそ尊敬し憧れを抱かずにはおれない。

パスカルの「パンセ」とのつながりについての考察や、それに気づかせる親友レオン・ウォルトへの献辞の読み解きなどは著者のオリジナリティあふれる部分であるし、著者が出会った子どもの姿や学究した事柄がそこそこに描かれ絶妙に引用されていることは、発達心理学の研究者であるがゆえの独自性であると思う。それと同時に、いや、それ以上に、「そういうことじゃないかしら、サンテックス（星の王子さまの作者サンテグジュペリの愛称）」「私はこう思うのだけど、違うかしら、王子さま」という問いかけ、あるいは問いかけを超えた、いのちあるものとの“対話性”が全編に貫かれているような気がする。そう。若かりし日々を過ごした60年安保闘争のさなかに「星の王子さま」に初めて出会った衝撃の時から、著者は幾度となく、本を「読み返した」というよりも、王子さまやキツネや、あるいはサンテックスと、さながら生身の人間同士やそれを超えるような深い交わり方で、対話をし続けてきたのではないだろうか。20年前にこの世を去られたご夫君も「よかったね。よくやったね」とこの出版を喜ばれておられるに違いない。「星の王子さま」を読むには格好の季節が巡ってきた。ぜひ本書を併せお読みいただきたい。(KT)

コミックの紹介

『保育士は体育会系!』河原ちよっと
サンマーク出版 2014年

12年間保育士をしていた著者が、見やすい絵とわかりやすい文で、保育の仕事丁寧的確に、とても面白くとてもまじめに描いている。保育者であれば「ああ、確かに」とうなずくことが多いだろう。決して思うようにはならないけれどやっぱりかわいい子どもたちと、大変だけれどやり甲斐のある保育という営み。必要に応じてコラムを組んできちんと文章で説明していることにも、子どもや保育者、保育に対する誠意が感じられる。(KT)

お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラム 平成27年度 前学期(4月開講) 受講生募集

乳幼児教育・保育や子どもにかかわるすべての方々を対象にした、夜間(18:20~19:50)または集中講義。「乳幼児発達障害論」「コミュニティ保育資源の活用」「子ども理解と保育の探求」「乳幼児保育マネジメント」などの開講を予定しています。

出願期間は、平成27年2月下旬~3月上旬です。詳細は下記までお問い合わせください。

【URL】 <http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji>

【Eメール】 nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp

【TEL】 03-5978-5949 (担当 安治・猪股)

◇訂正とお詫び◇

前号(秋号)のP44「古典の散歩道」の著者、高橋洋代先生の現在の肩書は、「(保育アドヴァイザー)」です。不手際を深くお詫び申し上げますとともに訂正いたします。

(編集部)